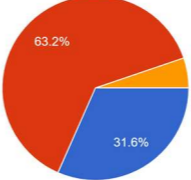
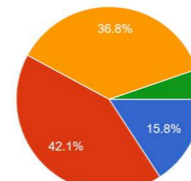
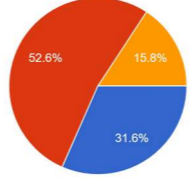


重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び最終評価に向けた改善策等
1 授業実践力の向上	① 【個別最適な学びの充実】 児童生徒の実態、ニーズを捉え、担任及び授業者等、学部全体で情報を共有し、共通理解のもと一人一人に応じた目標や学習内容を設定し、評価に努める。 【継続】	教務課	児童生徒一人ひとりの目標に応じた学びに必要な情報を部全体で共有し、共通理解のもと、授業実践することができたと考える教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満  【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・31.6% イ ややあてはまる・・・63.2% ウ あまりあてはまらない・・・5.3% ア+イ 94.8% <評価A 目標達成> 	児童生徒一人ひとりの目標、その他様々な情報について共通理解したうえで授業に取り組むことができた教員の割合は目標に達した。アンケートより、学部会や学部研究会等のように設定された場での“児童生徒の目標や手だて等の確認”“外部専門家との連携事業による助言などの共有”に加えて、毎朝の職員打ち合わせの後や、会議前の短い時間を使って“児童生徒の健康状態や家庭からの連絡”“授業内容等についての相談”などを行うことにより、児童生徒の情報をより多く得ることで個に応じた学びの提供に役立っていると考えられる。 今後も、隙間時間を活用して話し合いをもち、個別の目標の妥当性や個別の指導計画の検討、見直しに取り組んでいく。
	② 【自立活動の充実】 自立活動の指導において、外部専門家や教職員を対象にした研修会等で得た指導助言を日々の指導や目標設定に生かし、指導の効果を高めることができることを目指す。	研究推進委員会 自立活動推進委員会	自立活動の指導において、専門的知見からの指導助言を日々の指導や個々の目標設定に生かし、指導の効果を高めることができることを目指す教職員の割合が A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満  【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・42.1% イ ややあてはまる・・・52.6% ウ あまりあてはまらない・・・5.3% ア+イ 94.7% <評価A 目標達成> 	年度始めより医療等外部専門家との連携事業を実施し、対象児童生徒における指導助言を日々の指導に生かしたことで「手指の巧緻性が向上した」「摂食方法の改善によって食事にかかる時間が短縮され、摂取量を増やすことができた」等の変容が見られ、指導の効果を実感することができた。本校の特色ある取り組みの一つである「スパイダーシステム」における研修会では、個々の実態に応じた取り組み方について指導助言を得ることができ、今後の自立活動充実のための一助となった。 今後も、外部専門家との連携事業や校内での自立活動情報交換会を実施する中で学びを深めるとともに、得た学びを学部内でも共有し、学級の枠を超えて指導の効果を高める。
	③ 【GIGA スクールの推進】 GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT機器活用に関する知識を高め、技能を身に付け、授業実践力を高める。	GIGA校内研修推進委員会	ICT機器を活用し児童生徒の主体的な活動や意思表出を引き出すための実践を行った教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満  【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・15.8% イ ややあてはまる・・・42.1% ウ あまりあてはまらない・・・36.8% エ あてはまらない・・・5.3% ア+イ 57.9% <評価D 目標未達成> 	ICT機器を活用している教員は多くみられるが、従来通りの教材提示など限定的な活用や教員側の活用が多い。児童生徒の主体的な活動や意思表出を引き出すために注目に値する授業実践を行う際に、ICT機器の活用方法に対するスキルの格差により、十分に活用できない教員が、ウ、エを選択したと考えられる。従来の使い方にとらわれず、柔軟な考え方で授業内容に合わせて、様々な場面でICT活用をしている教員もいるが、その活用方法が校内全体で共有されることが少ない。 今後は、教員全体の活用方法に対するスキル向上のために、学部間を越えた情報共有の場や、体験的な研修を行い、活用の幅が広がるよう、GIGA校内研修推進委員で検討していく。
2 安全・安心、生き活きた学校づくり	④ 【医療的ケア体制の強化】 保護者・教職員・学校看護師間の連携を強め、様々な研修を通して情報共有や理解を深め、学級・学部の枠を超えて医療的ケアのある児童生徒に関わる。	医療的ケア委員会	保護者・教職員・学校看護師間で連携をとりながら、様々な研修を通して情報共有や理解を深め、学級・学部の枠を超えて医療的ケアのある児童生徒にかかわることができたと考える教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満  【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・31.6% イ ややあてはまる・・・52.6% ウ ややあてはまらない・・・15.8% ア+イ 84.2% <評価A 目標達成> 	目標達成ではあるが、「ややあてはまらない」と回答した教職員が2割弱おり、十分に学級・学部の枠を超えて医療的ケアのある児童生徒に関わることができたとは言えない。 今後は、研修会や医療的ケア指導アドバイザー巡回事業等での学びを共有するなかで、学級・学部に関わらず、児童生徒の体調や医療的ケアに関する専門的な知識を深められるよう努める。また、その中での学びを保護者とも共有することで、児童生徒が更に安心・安全な学校生活を送ることができるように努めていく。
	⑤ a 【実際に即した危機管理】 学校で起こりうる事故や災害等に対し、事前に想定される危機については、マニュアルを作成して対処法を周知したり、訓練等を通して体験的に学んだりして、誰もが常により安全な方法を選択できるようにする。	指導課 PTA	抜き打ち訓練や伝言ダイヤル体験に参加し、緊急時の対応が理解できたと感じる教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満  【達成目標 B以上】	10月30日実施のため未評価	10月30日実施のため未評価

	⑤ b		<p>引き渡し訓練や伝言ダイヤル体験において、緊急時の連絡方法が理解できたと感じる保護者の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> <p>【達成目標 B以上】</p>	<p>引き渡し訓練参加保護者15名</p> <p>ア あてはまる・・・43.8% イ ややあてはまる・・・37.5% ウ あまりあてはまらない・・・0.3% エ あてはまらない・・・6.3% オ 不参加・・・12.6%</p> <p>ア+イ 81.3%</p> <p>&lt;評価A 目標達成&gt;</p> 	<p>今年度は災害時に備えて、保護者用のマニュアル「災害時における連絡方法・安全確認について」を配付した。引き渡し訓練の事前のお知らせとは別に、緊急時の連絡方法を確認しやすくしたことで緊急時の連絡方法を理解できた保護者が多かったと考えられる。一方で、能登半島地震の出来事を踏まえて、道中のルートของ 安全性や引き渡し後の状況を心配する意見が寄せられた。</p> <p>今後は避難訓練のお知らせの際に、道中のルートや引き渡し後の状況の想定を周知し、想定してもらう内容を含めることで、災害に対する意識を高めていく。</p>
	⑥	【効率的・協働的業務の推進】 業務改善に向けて、分掌業務のデジタル化を推進し効率化を進め、業務を分担して行えるようにする。	<p>会議のデジタル化を進め会議のペーパーレス化をはかり、会議の時間短縮と業務の効率が上がったと感じる教職員の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> <p>【達成目標 B以上】</p>	<p>教職員19名</p> <p>ア あてはまる・・・31.6% イ ややあてはまる・・・57.9% ウ あまりあてはまらない・・・10.5%</p> <p>ア+イ 89.3%</p> <p>&lt;評価A 目標達成&gt;</p> 	<p>今年度より職員会議の資料を事前に teams にあげておくことで、会議の時間が大幅に短縮された。職員の中には、「会議が早く終わった時間を別の作業時間にあてられる」などの声も聞かれる。また、出張伺い・復命書の様式を簡略化したことで煩雑で無駄な手続きが減り、業務の効率化が進んできている。</p> <p>今後は他の会議にも teams を活用していき、業務の効率が上がったと実感できる教職員が増える取り組みをするとともに、引き続き業務の平準化・協働的業務の推進のため、不必要な書類の見直しや定型文書の選択的入力等、できることに取り組んでいきたい。</p>